

東京病院ニュース

第45号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

平成26年4月号に寄せて

国立病院機構東京病院院長 大田 健

平成26年度が始まります。私にとっては東京病院の院長に就任して3年目を迎えることとなります。石の上にも3年という諺にもあるように、3年はいろんな意味で節目となる年限だと思えます。まず慣れて様子が分かり、就任前の夢物語を現実に合わせて作業と、直面する問題点の認識と分析、そして問題解決に向けた方策の立案と実行であつたという間に2年間が経過しました。こうして迎えた3年目の今年度は、院長としての成果を示すことで責任を果たすことが要求されているものと自覚しております。当院は新年度となる4月からDPCに正式に参加いたします。これを機に、新たに放射線診療センターを立ち上げ、放射線科の三上医師をセンター部長に任命しました。喘息・アレルギーセンター長は、初代で立ち上げに貢献した庄司副院長から小林統括診療部長に交代しました。呼吸器疾患では肺癌の患者数が毎年増加傾向にあることから、田村呼吸器センター長と廣瀬地域医療連携部長を中心に肺癌診療の一層の充実を図っております。その一環として、外来化学療法室を開設しました。廣瀬医師が併任で室長として就任し、今後の運営を担当いたします。消化器センター、総合診療センターを加えた5センターの協力体制がしっかりと機能して、当院の総合力が十二分に発揮できるようにさらに医療環境を整備して参ります。そしてこれまで以上に連携医の先生方と密に協力し、地域医療への貢献度を増したいと考えております。また、当院は直接関与する位置付けではありませんが、後方支援の形であっても当院の特徴を生かしながら、在宅医療に大いに貢献したいと考えております。

厳しい天候に見舞われたこの一年間でしたが、再び春を迎え、当院を取り囲む自然が何もなかったかの様に目覚めてゆくことに触れて、改めて元気をもらっております。素晴らしい自然と建物、そして、優れた人材から構成されているめぐまれた環境が十分に活用されて、北多摩北部医療圏はもとより我が国の医療の充実に貢献できることを願って、全員で頑張る所存です。「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、スタッフ全員がそれぞれの職責をしっかりと果たせる職場として、引き続き運営したいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成26年4月吉日



◇第3回 東京病院 病院祭報告◇



「サーカス」ステージ終了後の集合写真

2月1日(土) 11～16時に病院祭が行われました。

【テーマ】健康は心と体のハーモニー ～もっと知ろう！東京病院

平成26年2月1日、第3回東京病院祭には、「健康は心と体のハーモニー ～もっと知ろう！東京病院」のテーマのもと、1,100人の方々にご来場いただき、病院祭は大いに盛り上がりました。メイン会場の外来ホールは午前中からすでに満席となり、講演「肺がんのお話」を大勢の皆様が熱心に聞き入っておられ、午後のクラシックコンサートでは美しい音色に心が癒され、クラシックの枠を越えた「日本の歌」では演奏に合わせて一緒に口ずさみました。メインイベントであるサーカスコンサートでは、オリコン1位を獲得した「ミスターサマータイム」をはじめ懐かしいハーモニーに酔いしれ、「プロの味」を堪能されたと思います。そして、400人を超える会場の皆様が大きな声を出して「翼をください」を一緒に歌うと、自然に涙が滲んできました。血管年齢、骨密度、肺年齢の測定はとくに好評でしたが、希望者が多かったため、測定ができなかった方には申し訳ございませんでした。健康相談、栄養相談、お薬相談、放射線装置見学ツアー、介護用品紹介、職場紹介は「もっと知ろう！東京病院」という病院祭のテーマに沿った企画であったと思います。病院祭の開催日がインフルエンザやノロウイルスの流行時期と重なってしまったことは残念ですが、今回の病院祭の企画・イベントを通して、地域の皆様とのふれあいを高め、東京病院のことを少しでも知っていただけたのではないかと思います。次年度の病院祭は、マスク着用のない時期に開催する予定ですが、皆様からのご意見・ご要望を参考にさせていただきます。楽しく元気の出る病院祭となるよう企画いたします。どうぞご期待ください。

★第3回病院祭実行委員長 小林信之

各担当者から一言&フォトギャラリー

今年のアトラクションは、「ふみっちー」によるクラシックコンサート、「サーカス」によるライブショーと豪華二本立てで行われました。会場は開演前から熱気に包まれ「ふみっちー」による心温かい音楽、「サーカス」による洗練された美しいハーモニーに皆さん大満足されたのではないかと思います。

★アトラクション担当 近野



「サーカス」



「ふみっちーの」



病院祭メイン会場の外来ホールでは、午前11時20分より講演会が始まり、地域医療連携部長の廣瀬先生が「肺がんのお話」を講演されました。肺がんを疑う症状、診断方法、組織型別の抗がん剤の使い方などをわかりやすくお話され、とくに最新の治療法の進歩、個別化治療については興味深くお聞きいただけたと思います。病院祭が始まったばかりの午前中の講演でしたが、廣瀬先生の熱い語りにより予想を上回る200人以上の方は熱心に耳を傾け、第3回病院祭は上々のスタートをきりました。

★講演担当 小林



職場紹介ポスターは、病院にいらした皆様に職場の特徴を分かり易くお伝えできるよう職員が創意工夫を重ね一生懸命作成しました。このポスターから楽しい職場の雰囲気や、その職場で働く職員の魅力的な笑顔と活気も感じとっていただけたら幸いです。

★職場紹介ポスター担当 森田

★放射線見学ツアー担当 谷崎

活動開始時間は昨年の反省から、他のイベントと重複しないように12:00と15:00開始としました。一般撮影装置、CT装置、MRI装置を7名のスタッフで約100名の来訪者にわかりやすく説明しました。特に関心の高かったのはMRI装置での“磁場体験”で、高磁場に入るまでのチェック方法や実際に撮影している時の“音”を聞いて多くの方々は驚いておりました。画像を使用した説明では、果物(パイナップルやリンゴ)を三次元的に表示するまでの過程を見ていただき、最新機器を備えている放射線科をアピールできたと思います。



★出店担当 野口

せっかく病院祭に来て頂いたのだから、おいしいもの食べてお土産も…。そんな気持ちで院内レストランと売店の皆さんにご協力をお願いしました。食べやすいお祭りメニューや北海道物産、そして好評の手作りパンと飲み物を格安で提供して頂きました。今回で3回目になるので、スマートに病院祭を盛り上げて頂けたのではないかと思います。ありがとうございました。

健康チェックは、血管年齢測定、骨密度測定に加え、当院は呼吸器疾患専門病院でもあることから今回から肺年齢測定も行うこととしました。いずれの検査も好評で用意した整理券は、受付開始後間もなくなくなり、参加された皆さまの健康への感心の高さを窺い知ることができました。当日は寒かったこともあり、血管年齢測定に若干時間がかかりましたが皆さまのご協力により、ほぼ予定通り測定し終了することができました。

★健康チェック担当 久高



介護用品の展示を行いました。皆さまに実際に見て触れていただき、「こんな便利なものがあるんですね」「自分の家族にも使いやすいそう」などの声をいただきました。介護用品を上手に使用することで、今後の生活がしやすくなればと思っております。

★介護用品展示担当 藤塚

「病院祭ポスター」



今年は清瀬市内へ新聞の折り込み広告と院内ポスターの掲示により広報活動を行いました。予想を上回る方にご来院いただき大盛況に幕を閉じました。アンケートにも積極的にご答えいただき、特に「サーカス」「ふみっちーの」の講演と各種検査測定が好評だったようです。ご指摘、改善のご要望もいただいておりますので、来年の開催ではそれらを反映させてよりよい病院祭を地域の皆さまと作っていただければと考えております。

★広報担当 中澤



連携医紹介



医療法人リウマチ謙恵会

あずまりウマチ・内科クリニック

院長 東 孝典 先生

日本リウマチ学会専門医 日本リウマチ学会指導医 日本リウマチ学会評議員

日本リウマチ財団登録医 日本内科学会認定総合内科専門医 日本温泉気候物理医学会会員

診療科目：

リウマチ科、内科、リハビリテーション科、アレルギー科、整形外科

当院ご案内：

西武新宿線狭山市駅から徒歩1分に位置し主にリウマチを専門に診療しているクリニックです。患者様をお待たせしないように予約優先で診療させていただいております。

院長からの一言：

私たちは「患者さんの幸せの先に私たちの幸せと喜びがある」をクリニック理念として、常に心配りと思いやりを忘れず患者さんをささえるため、努力を惜しみません。

治療は患者様とともにスタッフ一丸となって：

関節リウマチといっても、症状、年齢、患者様の家族構成、生活様式など、それぞれの患者様に固有の背景があるはずであり、治療はその全てを理解した上で組み立てていかなければなりません。我々は、患者様一人ひとりの事情をしっかりと理解したいと思っております。

また、医師の視点だけで患者様を理解しようとはせず、看護師・理学療法士・薬剤師・放射線技師・事務員も患者様とかかわり、患者様を様々な角度から理解しようと日々努力をしております。それが出来なければ、本当の意味で、個々の患者様に合った治療方針を立てることは難しいと考えております。治療を受けるのは患者様であり、治療の成果を判断するのも、最終的には患者様ですから何よりも重要なのが、患者様ご自身の意見です。患者様には我々と一緒に治療に参画していただくため、忌憚のない本音が言いやすいように心がけています。

当クリニックにおける関節リウマチ治療に対する取り組み

過去、関節リウマチは一生治らない痛みと、止めることのできない関節破壊・変形、それに伴う生活の不自由さをもたらす病気でした。しかし、今では早期に診断し積極的に治療することにより、治癒する方もいます。関節リウマチは高齢者の病気と思われている方が多いですが、若い女性に発症しやすい病気で気付きにくい一面もあります。30歳から50歳代の女性では約2%の方が関節リウマチの可能性があります。実は自分が関節リウマチだと気付かずに、不自由な生活をされている方がとても沢山いることを御存じでしょうか？最近相



次いで有効治療法が新しく開発されたことを受けて私達は『最先端の治療』と『従来の治療』の融合をさせて積極的な治療に取り組んでいます。リウマチを発症したばかりの方には治癒あるいは、自覚症状も検査データ上の異常もない臨床的寛解を目指します。何年も罹患されている方であっても勿論その望みは同じです。

生物学的製剤治療について：

日本では、TNF- α を標的とした5製剤、IL-6を標的とした1製剤に加えて昨年にはCD80/86を標的とした1製剤が登場し現在、7剤が認可され内服薬だけでは得られなかった治療効果を上げています。当クリニックではすでに500例以上の患者様に使用し、高い治療成績を上げております。感染症などの合併症の管理に重点を置きながら、患者様の背景を考慮した生物学的製剤の治療を行っております。起こりうる重症合併症に対しては大学病院・専門病院と連携して対処するとともに、日ごろから院長・看護師長が24時間対応する「りうまちコール」により患者様の信頼と安全性の確保に努めております。

白血球除去療法 (LCAP) について：

関節炎により活性化された白血球を標的にして、それらの除去することにより炎症や痛みを抑える関節リウマチの治療法です。当クリニックでは生物学的製剤と併用する独自の治療戦略で効果を上げています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	×	○	○	○	×	○	○
午後 3:00~7:00	×	○	○	○	×	6:00迄	×

《休診日》日曜午後、月曜、金曜、祝祭日（予約優先）

所在地：〒350-1305 埼玉県狭山市入間川 1-3-2

連絡先：TEL 04-2900-1155・FAX 04-2900-1156



お車の場合は、地図中の赤い点線を参考にお越しください。



広域地図



周辺地図

結核研修セミナーが大雪のなか開催されました

臨床研究部長 蛇澤 晶

東京都医師会の共催で平成26年2月8日に学士会館において、「結核とその周辺疾患」をテーマに第11回結核研修セミナーを開催しました。前夜から降り続いた半世紀ぶりの大雪で足もとが悪いうえ、交通機関の遅延や一時運転見合わせなどが続出したなかで開催できるか否か不安でしたが、少なからぬ医療関係者の方が参加してくださり、結核症に対する高い関心を持っておられる方が多いことを認識しました。

この会は、職種や所属施設を限定せずに、医療関係者の皆さんに結核症の知見を知っていただくことを目的として毎年開かれており、初回から東京都医師会に共催していただいています。例年、当院における結核診療の現状を院長が提示し、東京都感染症対策課の方（本年は渡瀬 博俊課長）から結核症の疫学や行政上の結核対策を御講演いただいた上で、結核症における実際の診療（診断・治療など）に関する総論的な講演、結核症に関連したトピックの講演をお願いしています。今年は「結核後遺症の治療」（当院 松井 弘稔 呼吸器内科診療部長）および「肺非結核性抗酸菌症の診断と治療」（複十字病院 森本 耕三 呼吸器センター主任）にトピック部門を担当していただき、いずれの講演に対しても盛んな質疑がなされました。

あの大雪のなか参加してくださった皆さんにお礼を申し上げます。次回のセミナーを来年2月7日に開く予定でありますので、御協力・御参加のほどをよろしくお願いいたします。



講演会場



雪の学士会館

『病院間医療安全相互チェック』終了しました。

柴田師長・医療安全管理係長

全国に143ある国立病院機構の病院では、平成23年度より複数の病院間で医療安全対策の現状を評価し、医療安全対策の標準化、質の向上を図る目的で、『医療安全相互チェック』を行っており、12月10日、当院と東京医療センター・村山医療センターの3施設で実施しました。当日は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士、事務など多職種のメンバー構成で院内各部署をラウンドし、病院間で意見交換を行いました。



退職者紹介



薬剤科長 粟野 厚直

昭和52年の卒業後、国立病院に奉職して以来、37年間に亘り国家公務員の末席を汚してまいりました。病院薬剤師として多くの病院を経験し、診療科目、救急の取扱、地域性などの違いと薬剤科業務の連携を体得してまいりました。4月からは民間人として、今まで同様医療の現場に身を置くことになりましたので、今までの経験を十分に生かして、国立病院出身者として恥ずかしくない姿勢を示していきたいと思っております。今までご指導ご協力を賜った皆様にお礼を申し上げますとともに、今後とも相変わらずのご指導、ご厚誼をお願いして、定年退官のご挨拶とさせていただきます。



管理課長 水村 正明

一昨年4月、国立がん研究センター（柏地区）からまいりまして早や2年、本年3月31日を持ちまして定年退職を迎えました。過ぎてみればあっという間です。私は昭和49年5月、国家公務員として最初に西埼玉中央病院に採用され、ここを皮切りに転勤生活がスタートしていきました。西埼玉中央病院から数えますと東京病院で8施設目になりますが、おそらく同じ事務職の皆さんは私の年まで働きますと、もっと経験する施設数が多くなるのではと思います。なぜなら、私は38歳になって初めて施設を異にすることになったからです。いろいろな病院に勤務しますとその病院によって診療にも特色がある訳ですから我々事務職もそこを見極めて仕事に精を出すということですが、この病院に来てからは、少しだけですが昔の病院の姿を知っている自分からすると、まさに変革期に突入しているような気がいたしました。救急受け入れ体制が本格化し、さらに地域災害拠点病院としての意識の高まりが災害訓練にも現れていると感じました。昨年12月の訓練では小規模ではありましたがトリアージまで含めた訓練となりました。徐々にトリアージの規模・経験を増やしていけば必ずや地域に貢献できる病院になっていくものと思います。

そして、大田院長はじめ職員一丸となってリスタート病院からの脱却をめざして頑張っていけば、今まで以上に素晴らしい病院になると確信しております。

最後になりますが、患者さんの投書でこの病院の職員はとても挨拶がしっかりしてとても明るいとお褒めの言葉をよく頂きます。この習慣は今後もずっと続けて頂きますよう節をお願いを申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。



栗崎博司神経内科医長退任にあたって

臨床研究部長 蛇澤 晶

栗崎先生は1978年（昭和53年）5月1日から36年弱にわたり、当院の神経内科医として勤務されてこられました。本年3月31日をもって定年退職されることになりました。在職中は、神経難病や認知症の診療・臨床研究に携わってこられ、1981年からは神経内科医長、2012年からは臨床研究部薬理研究室長を勤められました。今後は開業医として地域医療に尽力されるとともに、週1回、当院の外来を担当されることになっています。

今後のご活躍をお祈りしたいと思います。

診療内容 病床数560床

- | | | | |
|-------------|---------------|-------------|-------------|
| ○呼吸器センター | ○喘息・アレルギーセンター | ○消化器センター | ○総合診療センター |
| ●呼吸器内科 | ●アレルギー科 | ●消化器内科 | ●総合内科 |
| ●呼吸器外科 | ●眼科 | ●消化器外科 | ●循環器内科 |
| ●リハビリテーション科 | ●耳鼻咽喉科 | ●リハビリテーション科 | ●神経内科 |
| ●放射線科 | ●皮膚科(入院のみ) | ●放射線科 | ●麻酔科 |
| ●緩和ケア内科 | | ●緩和ケア内科 | ●臨床検査科 |
| | | | ●整形外科 |
| | | | ●リハビリテーション科 |
| | | | ●泌尿器科 |
| | | | ●放射線科 |
| | | | ●歯科(入院のみ) |

肺ドック・消化器ドックを行っています

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ○肺ドック | ○消化器ドック |
| 月～金 9:00～10:00 (1日2名) | 月～金 9:00～12:00 (1日2名) |
| 料金: 27,000円 (税込) | 料金: 51,840円 (税込) |

～お申込み方法・お問合わせ先～

予約センター: TEL 042-491-2181 受付時間: 平日8:30～15:30

受付時間: 初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) 予約センター 042-491-2181
再診 8:00～11:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)

専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙 (予約制)	火(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来		
肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
咯血 (予約制)	火(午後2時～)	咳をともなつて気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
難治性喘息外来 (予約制)	月(午後2時～4時)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など (要神経内科外来受診)。
肝胆脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)
白内障外来	木(午後13:30～15:30)	白内障の診断、手術の相談、説明など、これから白内障手術を検討されている方の各種相談などを行っています。

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合 (医療機関)
外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい
CT・MRI検査の申し込み: 医療連携室へお電話下さい

医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～15:30)
TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

